

第3回 養父市教育（施設）のあり方検討委員会 会議録

日 時 令和7年9月19日（金）午後7時00分～
場 所 養父公民館2階 A研修室

1 開 会

午後7時、高木課長により開会。

出席者の氏名

委 員 小西 哲也委員長、中島 邦子副委員長、村崎 富美子委員、
安東 博之委員、西山 佳代子委員、宿南 宏行委員、
田邊 賢吉委員、田中 政博委員、世登 創太郎委員、
岸本 純委員、中野 宗一郎委員、原 真理委員

事 務 局 小井塚理事兼教育部長、羽瀧経営企画部長、
井上市民生活部長、柳川まち整備部長、
西山教育部次長兼こども学び課長、高木教育課長、
中尾学校教育担当課長、森崎100年のまなび共創課長、
小林土地利用未来課兼教育課副課長、中西教育課主幹、
日下部こども学び課主査、圓山教育課主査、白山教育課主事

傍 聴 者 4名

2 委員長あいさつ

小西委員長…こんばんは。本日は第3回目の会議になります。先日は堺市で研修会があったので参加してきました。大変大きな市で、庁舎の周りには仁徳天皇陵古墳があるととてもいいところですが、都会は都会で抱える課題があるようです。昨日、新幹線で向かっていたところ、車内で停電があり広島のあたりで止まってしまいました。何時間もここにいることになるのかと思っていると、停電区間を惰性で通り過ぎてしまっており、20分停車した後その新幹線はまた動き始めました。なんだか不吉な予感がしております。この会議で、多方面の皆さんから色々な意見が出ることを願っています。

今日は皆さんのお手元に学校統合案が配布されており、このことについて意見を出し合うことになります。忘れないでほし

いのは、「学校を統合するということはまちを再編するという
こと」です。その中の一番大切な部分に、私たちは今関わって
いるのです。あの地域のおじいちゃんやおばあちゃんはどうな
るかということも頭の隅に置きつつ、今日のグループワークを
進めていっていただけたらと思います。

3 議 事

(1) 報告事項

- ・第2回委員会会議録と主な意見の確認について

(2) 意見交換

【説明】

事務局 …皆さんからの意見や委員長のお話にもあるように、学校統合が大
きな事案であるということで、市としても内部で情報共有をして
いるところである。今日はそれらを踏まえて、市のまちづくりの
根幹を担うまちづくり計画部門や財政部門を所管する経営企画部
長・賑わいや地域をどう支えていくかということや、地域自治組
織を所管する市民生活部長・公共施設全般や交通インフラという
ハード部分を担うまち整備部長の3名も同席させていただく。そ
して、皆さんの意見を市の方でしっかりと受け止めながら検討し
ていきたいという考えである。

【グループワーク】

- ・養父市の学校・園のあり方に係る具体的な方向性について

- ① いつ、どこを、どうするのか
- ② 統廃合の基準について
- ③ 学校施設の共用化・複合化について

【発表】

(1班)

・統合は止む無しだが、子どもが少なくなったから統合する、ではなく、
養父市のまちづくりのビジョンを明確にしたうえでの統合でないと市民の
理解も得られないので計画的に進めていくべき。

- ・こども園、小学校、中学校と連動するものなので、教育委員会案である令和 11 年度の宿南小学校区と養父小学校区における同時期の閉校については、一度に 2 つの地域から学校が無くなることに不安を感じる。
- ・八鹿小学校は、現状も駐車場が狭い問題がある中で統合するとなると、さらにその問題が大きくなるのではないかという心配もあるので、計画的にクリアしていく必要がある。
- ・関宮学園ができた経緯や積み上げたものを活かそうと思うと、残しておいた方がいいのではないか。一度小中が合同にされているのに、統合によりまた分けられてしまうのは、養父市が示した方向性は何だったのだろうかと思われるかもしれない。
- ・建物を新設するなら、ただ新しい建物を建てるのではなく、地域との繋がりが持てる複合施設を作ってほしい。そのためには令和 12 年度という計画をずらしてでも検討していくほうがいい。
- ・建屋小学校の特認校としての取組が他校でも継続できるのであれば、人数が少なくなっているのに、閉校してもいいだろう。
- ・こども園と保育所の人数を考えると、小さいうちからの集団教育を学べるように令和 11 年度に閉園という計画を前倒しにしてもいい。
- ・中学校が市内で 2 校となると、通学時間に 1 時間以上かけないといけなくなる地域も出てくるので、旧町につき 1 校は残す方がいい。

(2 班)

- ・小学校については概ね方針通りでよい。文科省や県教委が示す通学距離や時間の基準もこの方針内容であればクリアできるだろう。
- ・この案を進めていくなれば、市民のその意味や裏付けを説明できるように準備しておく必要がある。
- ・八鹿小学校に高柳小学校と伊佐小学校が統合すると、一気に 100 人の子どもが増える状況になるが、教職員が子どもたちのケアをできるのか。一年ずらしながら進める方がいいかもしれない。
- ・養父市の出生数を考えると、中学校も行く行くは一つに統合することになるかもしれない。案にある令和 14 年での統合を急ぐのではなく、さらに先のビジョンを作ることで、市民を含めたまちづくりをすることができるのではないか。
- ・こども園は、基本的に小学校とリンクしているところがあるだろうから概ね方針通りでよい。大前提として、待機児童ができる状況にならないこと。
- ・建屋小学校については大人だけの意見になっていないだろうか。誰でも通学できる制度になっているが、そこに付随する三谷こども園にはその制

度がない。

(3班)

- ・統合は止む無し。
- ・統合すると地域に密着した関りが遠くなってしまうのではないか。
- ・ハード面の整備に関して地域に説明ができるように、計画案にある令和11年度や令和14年度よりも後ろにずらすほうがいいかもしれない。
- ・小学生が長い通学距離に耐えることができるのか。
- ・養父地域や大屋地域での義務教育の可能性も探ってみるといい。そうすれば地域と密着した教育環境を作ることができたり、統合する意味合いを作ることができたりする。

【まとめ】

小西委員長 …不吉な予感は当たらなかった。皆さんからの色々な意見に感謝する。1班には「これはまちづくりの一環だ」という意見もあったようだ。また、「どうせ統合するなら複合施設にする」という意見もあったが、これからの日本はそうなっていくのだと思う。点在する公共施設こそお金の無駄。京都市は全く田舎でないが、一か所に機能を集約化させるやり方でまちづくりを進めている。繁華街で人があふれるまちの中に学校があり、学校のなかに色々な施設が入っている。観光地もたくさんある都会だから仕方ないのかもしれないが、それこそ地方が見習うべき事例の一つだと考える。

2班は、「一気に子どもが増えると先生が大変ではないか」という意見があったが、先生方は耐えることができると思っている。また、「もっと先を見据えて考えるべきだ」と言われていたが、市民を納得させられるまちづくりのプランを作るべきだという考えに共感をした。

3班の「統合すると地域と連携した学びができなくなる」と言われていた。たしかに、どうしていけばいいのだろうか。田んぼや畑をするおじいちゃんやおばあちゃんの学びを受けた子どもたちが、いずれ養父市に帰ってきて大きな事業を起こしてくれるかもしれないという希望がある。それがいわゆる教育である。そのためにはどうしていくかを、統合した後も考えていかないといけない。やはり、義務教育学校はいいのでしょうか。日本の教育の一番の課題は出口教育であり、小学校を卒業させること、中学校を卒業したら高校に入

学させることでいっぱいになる。この辺りだと八鹿高校に入学する人が多いのだろうが、養父市枠があるわけでないなら、県教委に交渉して枠を作ってもらうべきではないだろうか。そのようにして、統合を考えていくべきだ。

養父町民憲章は、まさしくあるべき国家像だと考える。学校統合を機に、このことをもう一度皆さんで考えていきたい。今子どもたちに最も求められているのは協働する力、つまり、他者と力を合わせて答えを求める力である。地域が大きくなれば色々な人材がいるということも忘れてはいけない。その人たちと子どもたちがいかに関わっていけるようにするか。また、学校が統合したら地域で何が起こるかということを考えていただきたい。繋がって学ぶからまちづくりになる。その拠点がどこになるかも考えたい。公助・自助・共助という言葉があるが、公助とは市役所のサービスのことであり、市民がそれに頼ってばかりになるといけない。大切なのは子どもたちも含めた自助・共助である。「自分で頑張っていて、協力し何かを成し遂げていく」、これが養父市のあるべき社会像として、支えあう市民の姿を大人と子どもがいっしょになって考えていくべきだと思っている。まだまだ先は続くが、頑張っていきたい。

4 その他

・次回は令和7年10月24日(金)午後7時～

5 閉会

午後9時、中島副委員長により閉会。